



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを「職員の仲間」という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 34 号

2021 年 11 月 18 日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

西部中学校 長坂SP活動初日

11月18日、西部中学校のウィークリーSPとして長坂SPが加わってくれました。長坂SPは今年度、片葩小学校で開催された「夏のわくわく算数教室」に参加をしてくれていました。そのSP活動を経て、ウィークリーSPもやってみたい！と思ってくれたそうです。そして、10月に西部中学校で教育実習を行ったため、西部中学校でのウィークリーSPの活動が決まりました。「小学校も中学校も、どちらの校種も興味がありますが、中学生の方が関わる機会が少なかったので中学校でのSP活動を通して経験を積みたいと思いました」と話してくれました。

この日、長坂SPに会いに行ったら数学の授業に入っていました。授業中、生徒同士で問題について話し合う時間になりました。すると、生徒の一人が長坂SPに「これってどうしたらいいでしょう。これで合っているのでしょうか。」と質問をしてきました。活動初日に突然のことでビックリしたかもしれませんが、たとえSPさんでも教室にいたら、学校にいたら「先生の一人」です。初めてのことながら、生徒と一緒に考えていく、そんな姿勢で支援をしてくれました。私が帰る頃、長坂SPから「中学校の教科書ってお借りできますか？勉強してきます。」と声をかけられました。どうやらもう一度教科書を見直して、自身の理解を深めたり、「教える視点」で教科書を見てみたいそうです。その意欲が素晴らしいです。こうした学ぶ意欲、現場に出ても大切にしてもらえたらと思います。また、積極的に学ぶ姿を生徒に見せられる先生、「背中で語れる」先生は素敵ですね。ただ言葉で「やりなさい」と言われるよりも、目の前の先生が行動で示してくれたら……成長の手がかりになったり、信頼や自信に繋がっていったりすると思います。

どれだけ勉強をしても、し足りるということはありません。それは、どの職業に就いても同じことだと思います。例え、教師になったとしても、とっさの質問への返答に「困ること」「迷うこと」は当然あると思います。「もっとよい切り返し方があったのではないか」「こうしたらもっと伝わったろうな」そんな反省の連続です。この反省を繰り返していく内に、返答への瞬発力や伝える力など、教師に必要なさまざまな力が培われていきます。そしてこれは、現場で実際に児童生徒と関わる中でこそ、磨かれていく力です。きっと町内のSPさんは、日々の活動でそれを感じてくれているのではないかと思います。また、現場の先生方はどうされているのか、それを見ることも一番の勉強になります。ウィークリーSPさんは特に、こうした“現場の先生方の生の指導”を見る機会に恵まれています。長坂SP、これからたくさん「現場感覚」を味わって、見て、学んでいってください。これからよろしくお願ひします。

